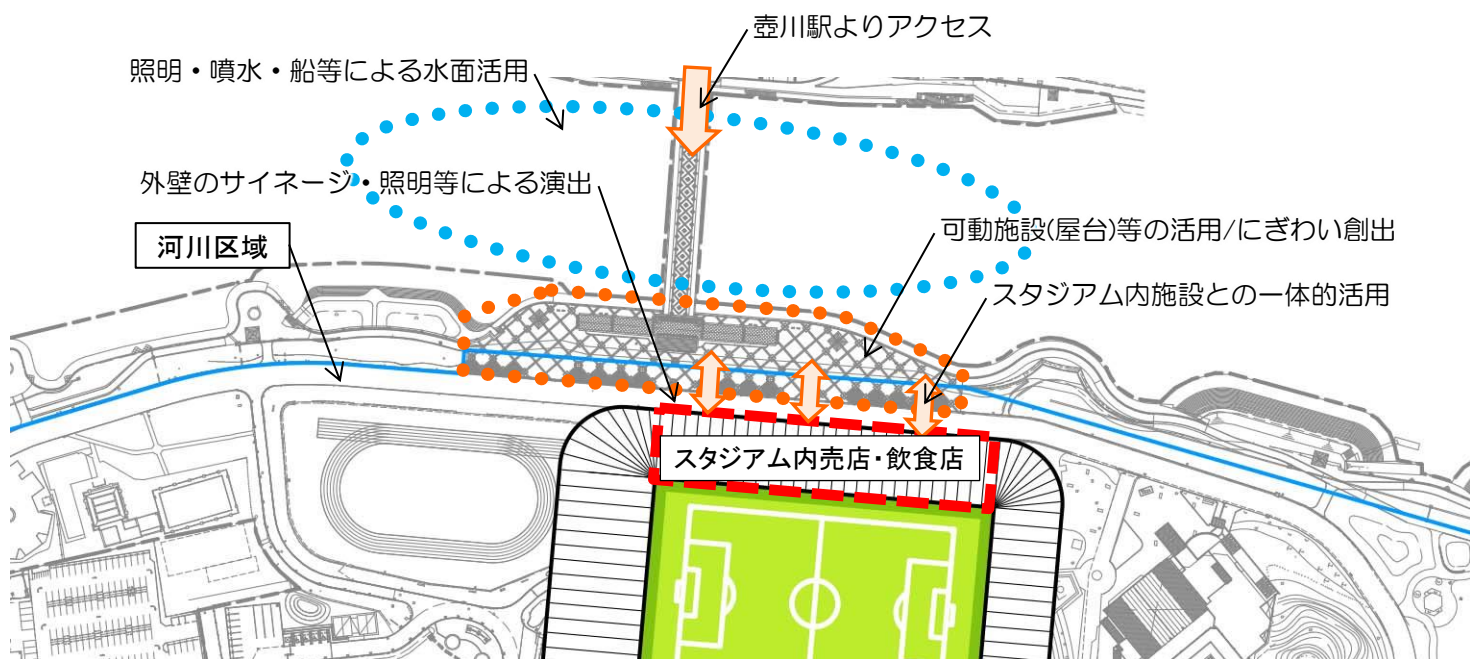


## 第6章 国場川沿いにぎわい施設

### 1. 本章の概要

#### (1) 整備イメージ



## 2. 基本方針

### (1) 整備の目的

#### 1) 観光振興に資する新たなにぎわい拠点の創出

計画地の比較的近い位置には沖縄観光地の定番である国際通りがあり、多くの観光客でにぎわうとともにその周辺に宿泊している人も多い。また、国際通りとは反対側の空港方面には観光客に加え、県民利用も多い小禄地域の商業施設が立地し、計画周辺には多くの県民・観光客が訪れている。

このように計画地周辺には多数の滞在人口が既に存在しているため、彼ら呼び込むことができればにぎわいを創出しやすい条件が整っている。

スタジアムは、スポーツイベントの対応した大規模な集客施設であり、大人数が利用できる広場や動線などが整備され、またJリーグ公式試合の際には広場に多数の屋台が立ち並び、にぎわい創出のための機能が整っている。しかし、類似事例の多くは、イベント開催に合わせた利用しかされていないことが問題点である。

本計画においては、日常的にこの集客機能を活用することでにぎわいを創出し、また、近隣の商業施設と観光客が行きかう有機的な連携を図り、沖縄観光の新たな魅力となる都市型観光拠点の創出を目的とする。

#### 2) 景観を活用した新たな魅力の創出

奥武山公園と国場川の織り成す水と緑の景観は利用者の心を落ち着かせ、ゆとりと潤いを提供してきた。

計画地のこうした景観資源を活用することは、県内の他の場所ではできない新たなサービスを提供することが可能であり、同じカフェ等の飲食施設を整備したとしても近隣の商業施設とは違った魅力を創出することができる。

このような利用は、これまで外から眺めるだけであった奥武山公園に新たな価値を創出し、イベント時以外の新しい利用を生み出してくれる。

計画地はゆいレール壺川駅の正面にあって全体を見渡すことができるので、人が楽しそうに活動する姿を創出することでそれを見た人もその場所に行ってみたいと希望する相乗効果も期待できる。

本計画においては、計画地の景観や立地特性を活かし、新たな地域の魅力づくりに寄与することを目的とする。

#### 3) スタジアム運営に寄与する施設

先に述べたとおり、スタジアムには多くの観客が訪れ、大人数の利用に対応した広場等の空間が整備されるが、これらはイベントに合わせた短期集中型の利用であり、多くのスタジアムではイベントがない時は閑散として、日常的な活用がされてこなかった。

このため、スタジアム周辺にアクティビティと魅力を付加することで、新たな消費行動を誘発し、使われてこなかった集客機能を活用しようとするのがにぎわい施設の整備の目的である。

一部の集客施設では、イベントが開催されていない時間帯でも、施設の知名度を活かした集客を図り、飲食・物販・アミューズメント等で収益を確保している事例もあり、スタジアム運営の負担を軽減する新たな収入源の確保を目的とする。

## (2) 整備の基本方針

### 1) スタジアムとの連携と河川区域の扱い

国場川沿いのにぎわい施設は、スタジアムでイベントが開催されていない時間の有効活用を図る施設であり、多様な商業施設の集積がスタジアム周辺ににぎわいを創出し、エリアとしての新たな魅力を形成することに寄与する。

このため、商業施設等はスタジアムと個別に整備されるのではなく、一体的な利用が可能となるように整備することが大切であり、可能であればスタンドの下部を活用して、空間の有効活用を図ることが重要である。

また、国場川沿いの広場空間は河川区域に含まれていることから、過大な施設を整備することは慎み、固定された建築物等の整備は極力抑制する。このため、広場や園路に屋台等の移動型施設を設置して、必要なサービスを提供する。

### 2) 水面の活用と景観演出

より多くの観光客や県内客を誘致するためには、マーケティングの概念を活用することが有効である。マーケティングにおいては、標的市場を絞った集客戦略を策定するが、近年は流行に敏感な女性を意識したサービスが各所で採用されている。

元来、女性は流行に敏感なだけでなく、仲間同士の情報交換も活発であり、以前は井戸端会議が主な情報源であったが、現代においてはSNS\*などのICTが活用されるようになり、情報伝達の速度は以前と比べ物にならないほど広がっている。

こうした若い世代はSNSで情報発信するための素材を求める傾向が強く、演出照明や水景は人気の高い被写体である。こうして紹介された情報を他の人が見ることによって、次は自分がその場所に行って写真を撮りたいと考え、さらに多くの人を集客するという相乗効果が生まれるため、現代においては、こうした行動を意識したサービス提供戦略が必要となってくる。

本計画においては、正面の国場川の水面とスタジアムの壁面（ファサード）は、演出照明の対象として魅力が高いと考えられ、関連法令や環境等に配慮した上で積極的な活用を検討する。

※SNS：Social Networking Service の略で、Web上で共通の意識を持つ人が交流するサービスのこと。(Line、FaceBook、Twitter、Instagram等)

### 3) 魅力を高めるアクティビティの集積

観光客や県内客が魅力を感じることは、景観演出だけではなく、その場所で何が楽しめるのかが重要であり、飲食・物販・アミューズメント等の魅力は重要である。これらはその場所にしかないというオリジナリティが重要であり、その場所でしか扱っていないものがあれば、その場所に行くという動機づけになると考えられる。

また、このようなアクティビティもSNS上での情報発信の対象として人気の高いものであり、写真にした時のインパクトが重要である。

特に東アジアの外国人観光客はSNSの利用が日本人以上に盛んであり、同胞の投稿を頼りに多くの人たちが県民でも知らない場所に集まる傾向があり、テナントを選定する際に考慮する必要がある。

(3) 関連調査との整合性

1) 都市型交流拠点検討業務(H27 沖縄県)

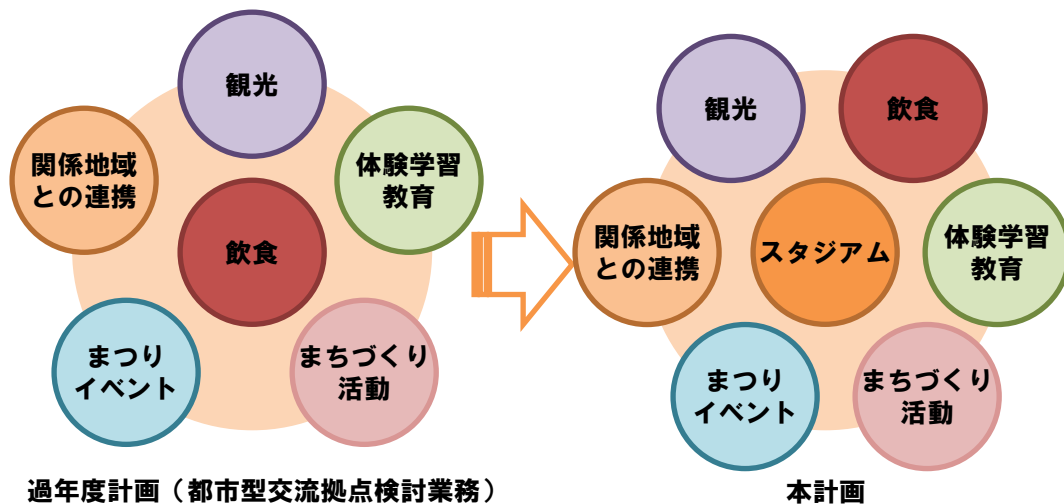
沖縄県において那覇市内の公共空間の利用状況を把握し、付加的利活用の可能性箇所を抽出し、都市部における交流拠点形成の可能性を検討するため、「都市型交流拠点検討業務」を実施した。

調査において沖縄県を訪れる観光客は順調に伸び、特に外国人観光客の増加が顕著であるが、その内実はニーズが多様化し、観光客個人の嗜好に合わせた旅を求める傾向が強まっており、団体旅行から個人旅行へ、観光地を巡る周遊型観光から自然体験・文化体験等の目的型観光へ、外構人観光客のリピーター化、民泊や古民家活用など、旅行スタイルの変化がみられ、こうした動向は沖縄21世紀ビジョンに「歴史、文化など多様で魅力ある資源を活用した独自の観光プログラムを戦略的に展開する」を体現するものである。

この中で複数の候補地を抽出し、最終的に国場川の活用について検討が加えられており、本事業との連携も考慮する必要があることから、本調査においてもその可能性を検証する。

同調査においては、奥武山公園の国場川沿いのエリアに飲食店を立地させることを検討していたが、本事業によって新たにスタジアム整備も加わることから、その要素を加えた上で対象エリアの整備の方向性を検討する必要がある。

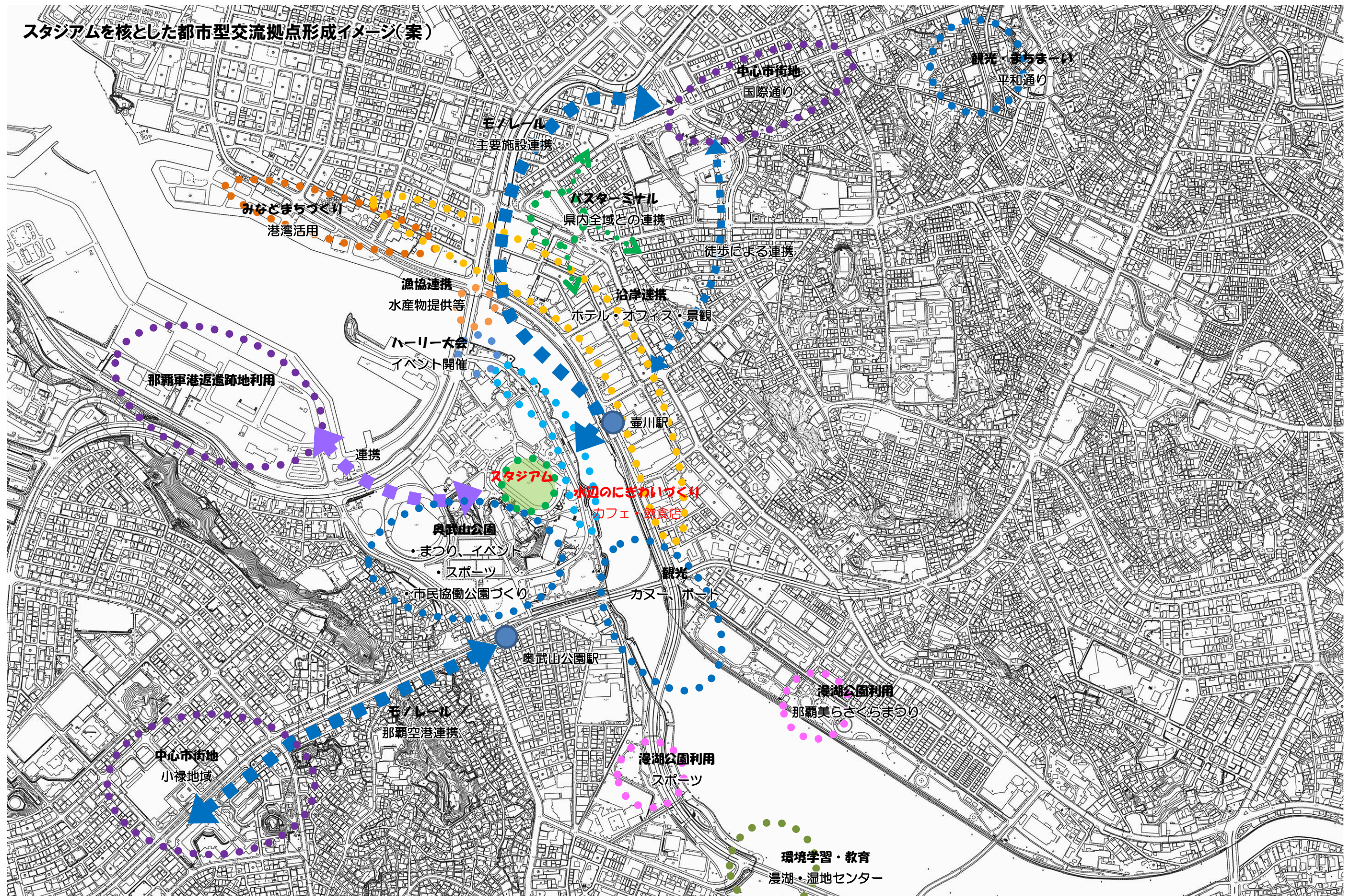
スタジアムの要素を加えた都市型交流拠点のイメージ



また、観光客の活動は本エリアの中だけで完結するものではなく、ある程度広い範囲での活用を検討する必要があることから、次ページにおいて、那覇市内の主要施設と本施設の連携のあり方について、その概念を次ページに示している。



スタジアムを核とした都市型交流拠点形成イメージ(案)







## 3. 国場川沿いにぎわい施設計画

## (1) 整備イメージ

## 1) 全体配置

スタジアムから国場川沿い広場はゆいレール壺川駅の正面に位置し、多くの利用者が最初に訪れるメインエントランスになると考えられる。

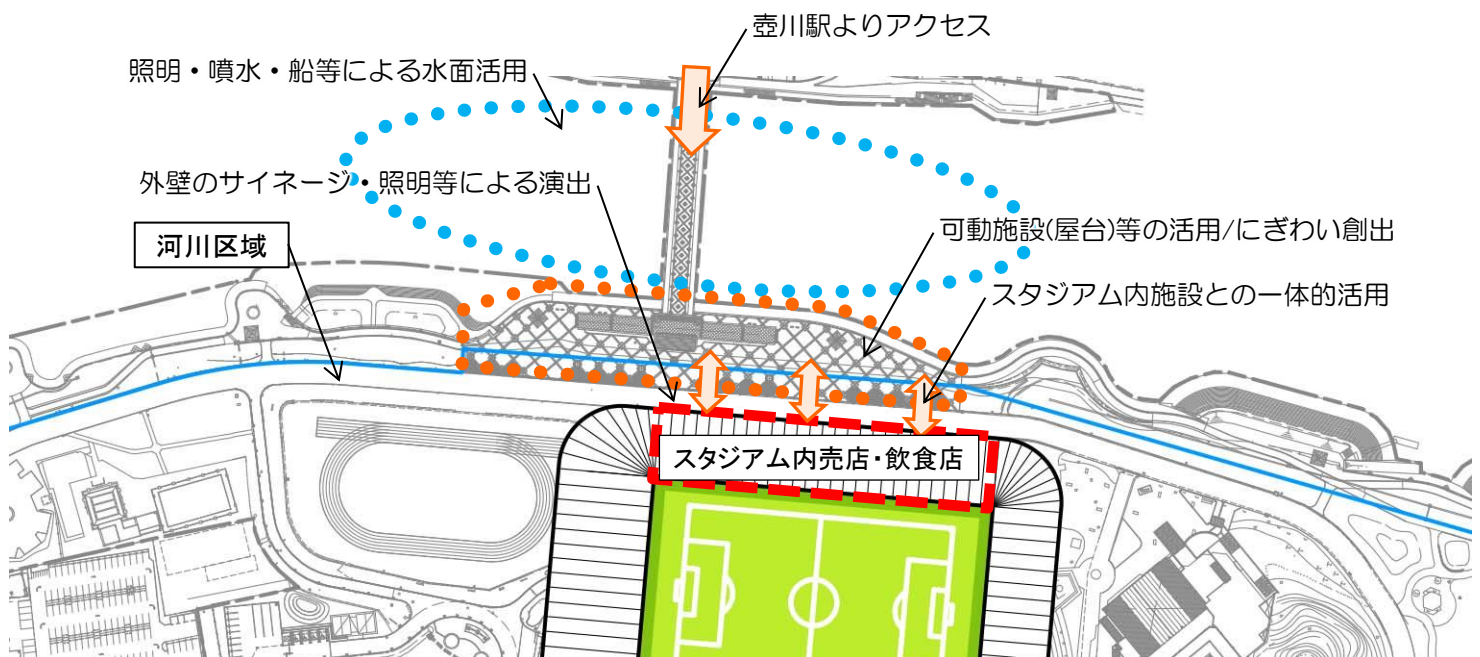
また、那覇空港に降り立った観光客がモノレール内から注目しやすい位置にあり、多くの観光客が往来する国際通りからも至近距離にある。この立地条件ににぎわいを創出することができれば、新たな観光拠点として多くの観光客が訪れやすい条件が整っている。

一方、奥武山公園の親水護岸周辺は二級河川である国場川の河川区域に含まれており、工作物の整備等が制限されている。

また、近くにスタジアムなどの大型の集客施設が整備されることから、飲食店や売店等の建築物を単独で整備するのではなくスタジアムの一部を活用して店舗を設置し、広場との連続性を確保することが効率的と考えられる。

さらに広場等の面的な活用については、可動性の高い屋台等を活用することで、多目的な利用に対応する。

にぎわいを創出するためには夜間照明等の空間演出が重要であるが、計画地及びその周辺には国場川の水面とスタジアムの壁面(ファサード)という広がりのある面的空間があるため、これを活用した修景を検討する。



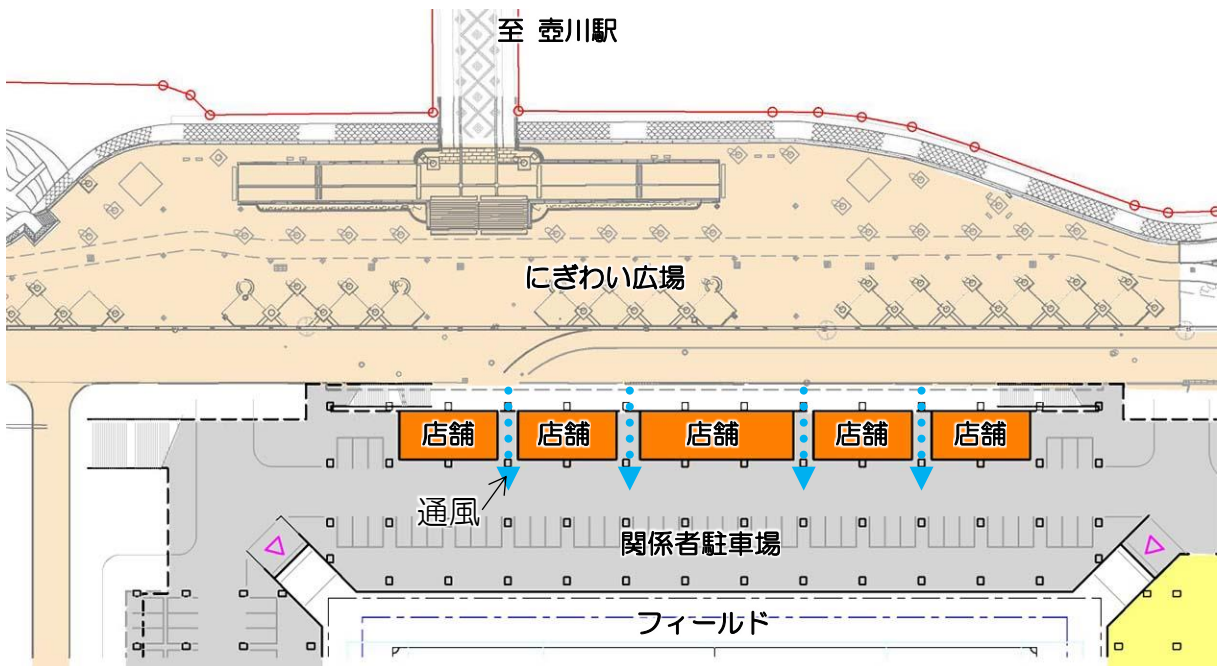
国場川沿いのにぎわい施設全体配置

2) バックスタンド下部

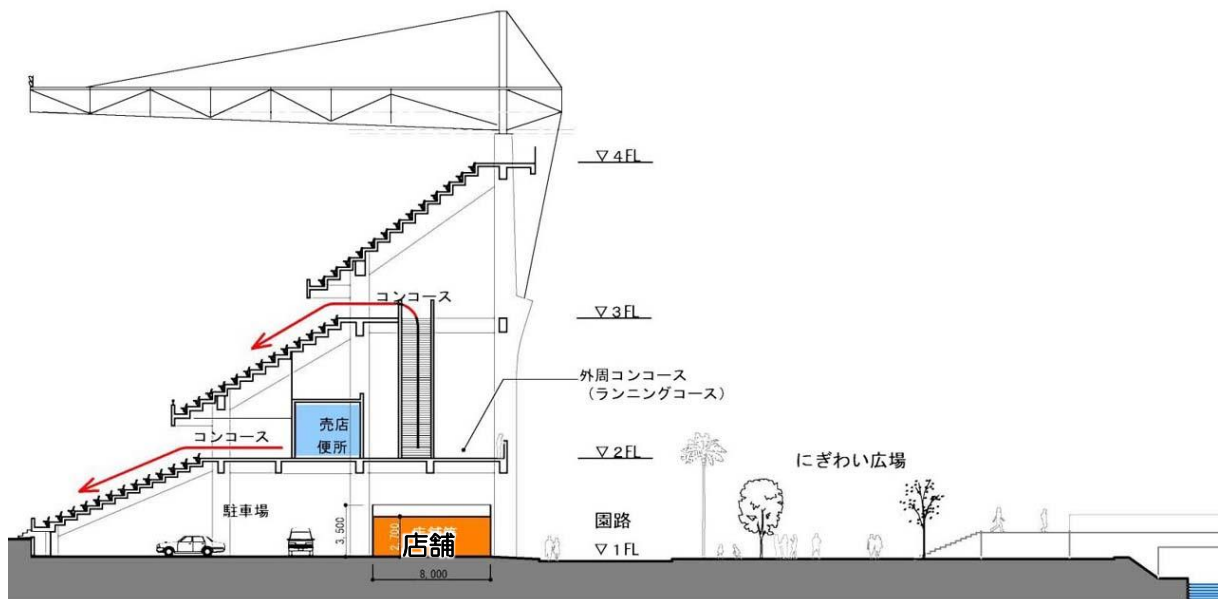
バックスタンドの下部については、国場川沿いの“にぎわい広場”との一体的な利用を考慮して広場に面するように飲食店・売店等の店舗を配置する。

店舗の配置については、スポーツターフの育成を考慮して通風を妨げないことが重要であり、店舗の区画ごとに隙間を開け、風の通り道を確保する。

それぞれの店舗の規模や店舗数については、今後、さらに検討を加える必要がある。



飲食店の配置計画



バックスタンドにおける断面配置計画



### 3) バックスタンド壁面

バックスタンドの壁面（ファサード）は対岸の壺川駅から目立つ位置にあるため、周囲に対する演出効果も高いと考えられ、デジタルサイネージや演出照明等を付加することによって華やかで注目を集める演出を行う。

### 4) にぎわい広場

国場川親水護岸から、奥武山公園の園路に至る範囲はにぎわい広場として活用し、大人数のたまり空間を確保すると共に飲食・物販等のサービスを提供し、魅力的なアクティビティを提供する。

なお、飲食・物販等のサービス提供には、エリアの大部分が河川区域内にあるため、屋台等の仮設工作物の活用を検討する。



にぎわい広場とファサード(壁面)の活用イメージ

### 5) 国場川の水面活用

計画地に人を集め、にぎわいを創出するためには一般の利用者が訪れてみたいと感じられる魅力づくりが必要である。このような魅力づくりは、飲食・物販等のソフトの魅力も重要であるが、同時に景観演出などのハードの魅力によっても、人を惹きつけることができる。

訪れた人が何もしなくとも、その場所にいるだけで“わくわく”する楽しい空間とし、また、写真にとってSNSにアップしたくなるような、フォトジェニック\*な景観を創出することも効果的である。

このような視点から水面は魅力的な要素であり、計画地に隣接する国場川の活用方法について、積極的に検討することで魅力の創出につながると考えられる。

本計画においては、噴水や演出照明等による修景的な利用から、船やカヌーなどの実際的な利用まで、さまざまな方法を検討する。

※フォトジェニック (photogenic/形容詞) : 写真に適する。写真向きの。写真うつりのよい。



ゆいレール壺川駅からの眺望と水面活用イメージ